|  |
| --- |
| 第１学年　指導者　（　　　）（　　　）（　　　） |
| 教科「生活科」16時間単元名「あきとなかよし」 | 場所：１年各教室 |

１　単元の目標

　秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

２　評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 　春や夏の自然との様子の違いや、秋の特徴に気付くとともに、季節によって生活の様子が変わることやその面白さ、自然の不思議さに気付いている。 | 身近な自然や自分の生活、地域の行事から秋の特徴を見付け、それらを表現したり、身近な秋の自然を利用して工夫して遊びや遊びに使うものを作ったりしている。 | 季節の変化に関心をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。 |
| 1. 夏から秋へ自然の様子が変化していることに気付いている。
2. 公園や校庭の植物や生き物の様子が変化していることから、季節が変わったことや自然の不思議さや面白さに気付いている。
3. 友達と伝え合うことを通して、秋らしさや自然の変化に気付いている。
4. みんなが楽しく遊べるように、遊び方やルールを工夫することや、分かりやすくするために工夫が必要であることに気付いている。
5. 秋を楽しむことを通して、秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。
6. 単元の振り返りを通して、自分の頑張りや友達の頑張りに気付いている。
 | 1. 身の回りで感じられる季節の様子や変化について考えたり、予想したりして、それらを探す計画を立てている。
2. 諸感覚を使って、自然を観察したり、関わったりすることを通して、季節の変化を感じ、表現している。
3. 木の実や落ち葉などをじっくり観察したり、比べたりして、秋の特徴を捉えたり、秋らしさを考えたりしている。
4. 木の実や落ち葉などをじっくり観察したり、比べたりして、それらを利用した遊びを考えている。
5. 比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫して作っている。
6. 伝えたいことを分かりやすく伝えたり、みんなが楽しく遊べるようにルールや約束を工夫したりしている。
 | 1. 身の回りに感じられる季節の様子や変化に関心をもち、それらを見付けようとしている。
2. 秋の植物や生き物に関心をもち、変化を探そうとしている。
3. 季節による変化や季節の特徴について発見したことや感じたことを友達に伝えようとしている。
4. 友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。
5. 秋祭り（仮）を開くために必要な役割を話し合ったり、準備をしたりして、みんなと協力して秋を楽しもうとしている。
 |

３　単元について

（１）指導内容

　　本単元は、生活科の教科目標である「具体的な活動や体験を通じて、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。」の中における、「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。」と「身近な人々、社会及び事前に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。」ために次の活動や体験を行う。

本校にはイネや様々な種類の野菜を育てている「矢口農園」があることで、四季の移ろいを身近に感じることができる。しかし、どんぐりやまつぼっくりなど、秋特有の自然物を採取することはできない。そこで本単元では、校内だけでなく、生活科見学で多摩川台公園も探検することで、子どもたちを秋の自然に思う存分浸らせる。そして、秋の自然を生かした飾りやおもちゃを工夫して作ったり、遊んだりして、季節の変化や秋特有の自然の良さに気付かせたい。また、諸感覚を使って、繰り返し自然と触れ合ったり、自分なりの思いや願いをもち、進んで自然と関わったりすることで、自然と一体になりながら四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

（２）創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

秋の自然を生かした飾りやおもちゃを工夫して作ったり、遊んだりすることで、自分なりの思いや願いをもちながら活動に取り組む楽しさを味わわせたい。また、友達と一緒に試したり、遊んだりすることで、進んで友達と関わり、作り方を工夫する、よりよくしたりするために改良する、試行錯誤するといった、互いに学び合える関係を作っていきたいと考えた。

秋祭りを開くという設定を取り入れることで、自分たちの作ったものを相手に伝えたいという気持ちや友達の作ったものを知りたい、やってみたいという意欲をもつことができると考える。秋祭りには、幼稚園や保育園の園児を招待することで、相手意識をもっておもちゃ作りをしたり、秋祭り（仮）の準備をしたりすることで、相手の立場になって考える「他者意識」を身に付けさせたい。

４　児童の実態

　　学校生活に慣れ、自分から進んで友達に声を掛けたり、助け合ったりし合う場面がよく見られるようになってきた。日頃の当番活動や日直の仕事も少しずつできるようになり、今では自分のやるべきことに責任をもって積極的に取り組むことができている。１学期の「げんきにそだてわたしのはな」では、毎日一生懸命自分の朝顔に水をあげ、朝顔の成長に喜んだり、その成長を友達と比べ合ったりと、ものの変化を捉え、言葉にして友達と伝え合っている様子も見られた。

　　生活科「なつとなかよし」では、「なつとなかよしになる。」というゴールイメージをもたせ、その目標達成に向け、４つの遊びグループに分かれ、遊びの計画から実行、そして振り返りまでを児童が主体となった対話を重視した活動を行った。計画段階である話し合いでは、「もっとこうしようよ。」や「ここはこうではないほうがいいよ。」「こっちがいいとおもうひと、てをあげて。」などと、自分の意見を友達に伝えることや、相手の意見を尊重し受け入れること、また意見が多くなってしまったときの解決方法などを自分たちで考え、工夫して取り組んでいる姿が見られた。計画した遊びを実行する際には、友達にやり方を教えたり、分からなそうにしている友達には担任が指示を出さずとも助けたりなど、クラス内における他者意識を養うことができている様子が見られた。

　　本単元では、「なつとなかよし」で培った、児童が主体となって行うゴールイメージに向けた計画立てや話合い活動を生かし、秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、季節の変化に触れたり、他の季節との相違点を見付けたりするなどと、秋についての好奇心を高めていきたい。また、本単元の「秋祭り」では園児がお客さんとなるため、学校や学級の顔の知っているお客さんではなく、初めて会うお客さんのことを考えた他者意識も高めていきたい。

５　創造的な資質・能力の素地を育成する視点

秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものをつくったり、遊んだりする活動を通して、問題を発見し、解決策を考え、実行することを繰り返して、問題解決を図る力を身に付けることができるようにする。

６　創造的な資質・能力の素地を育成するための手立て

　（１）問題解決の見通し、学習ストーリー、ゴールイメージを持たせることに関して

①ゴールイメージをもたせる。（低学年独自思考サイクル「レッツトライ！サイクル」

本時のめあてや単元のめあてを設定するときに、学習の最後にどのような姿になっていたいかを考えさせることで、より主体的に学習に取り組めるようにする。また、生活科だけでなく、国語科や図工科などでも、単元の始めに児童と共に対話しながら学習計画を立てることで問題解決を図る力の素地を養う。

②学び方キーワードの活用

　　ゴールイメージにどうしたら近付けるかを考えるようにする。そのときに出た意見を「キーワードカード」として蓄積し、自分たちでどのように学習を進めていくかをレイアウトできるようにすることで、児童が学習計画を立てられるようにする。

③振り返りの工夫

　　教室内に振り返りの視点を掲示し、いつでも意識できるようにする。さらに、学習中の振り返りタイムで黒板に振り返りの視点マグネットを貼って提示することで、何について振り返ればよいかを確認できるようにする。また、自立的に書き進めることができない児童への支援として、話型を示して支援する。

（２）交流の仕方の工夫に関して

　　　　話し合ったり、紹介したりする時は、交流が深められるように、３人組で活動させる。おもちゃを作る時間では、同じものをつくろうとしている児童同士を近くで作業させることで、グループ内で作り方等の工夫を共有しやすくする。

（３）ICT等の活用

　　　　見付けた秋や自分がつくったおもちゃの写真を撮っておく。その写真をスクールタクトのワークシートに貼り付け、紹介する時に活用する。スクールタクトを活用することで、児童の思いを学級で共有しやすくする。

（４）第０次の設定

　　　　　学習が始まる前に、秋に関係する絵本を読み聞かせたり、本や図鑑、秋の自然物を展示したりする。休み時間に児童が見ることで、学習内容への興味・関心をもたせるようにする。

７　指導計画（全16時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習過程 | 時 | 〇主な学習活動★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて　 | ◆評価規準【観点】（方法） |
|  | ０ | 〇秋の自然物を飾ったり、秋に関する本・絵本の展示や読み聞かせをしたりして、秋への興味を高める。★第０次の設定 |  |
| あきをみつけよう | １ | **あきはどんなきせつかな（１時間）**〇季節の変化について気付いたことを交流し、学習計画を立てる。★学び方キーワードの活用　★ゴールイメージ | ◆【思】①（発言）◆【主】①（発言） |
| ２ | **あきの校ていに出てみよう（１時間）**〇学校（校庭や矢口農園）で秋探しをし、見付けたものを交流する。★ICTの活用　　★交流の仕方の工夫 | ◆【知】②（観察・発言・つぶやき）　◆【思】②（ＷＳ・発言・つぶやき）◆【主】②（態度・行動・発言） |
| ３４ | **もっとあきをさがしにいこう（２時間）**〇多摩川台公園で秋探しをする。 | ◆【知】①（行動・発言）◆【主】①（行動・発言） |
| あきでつくろう、あそぼう | ５ | **見つけたあきをじっくりみよう（１時間）**〇学校や公園で見付けた葉っぱや実をじっくり見て、秋の自然物を使ってやってみたいことを考え、秋祭り（仮）の計画を立てる。★学び方キーワードの活用　★ゴールイメージ | ◆【主】③（発言・態度）◆【知】③（ＷＳ、発言）◆【思】③（ＷＳ、発言） |
| ６～11　１組⑽　２組⑾ | **見つけたあきであそんでみよう（６時間）**〇どんぐりゴマを作り、遊ぶ。（図工２時間）〇作りたいもののイメージをつかみ、設計図を作り、必要な材料などを準備する。〇秋の自然物を使って遊ぶものや飾るもの、生活に役立つものなどを作ったり、飾ったりする。〇作ったものを友達に紹介したり、一緒に遊んだりして、もっと楽しくなるにはどうするかを考え、改良をする。★ゴールイメージ　　★振り返りの視点★交流の仕方の工夫 | ◆【思】④（ＷＳ、発言）◆【思】⑤（発言・行動・作品）◆【知】④（ＷＳ・発言・作品）◆【主】④（ＷＳ・行動・作品） |
| 秋祭りをひらこう | 12～16　３組⑿ | **みんなであそぼう（５時間）**〇秋祭り（仮）の準備をする。〇秋祭りを開き、保育園や幼稚園の子などを招待して、遊んでもらう。（体育館）〇学習計画をもとにして、単元全体の振り返りをする。★ゴールイメージ　　★振り返りの視点 | ◆【知】⑤（ＷＳ・発言・行動）◆【知】⑥（振り返り・発言・行動）◆【思】⑥（ＷＳ・発言）　◆【主】⑤（振り返り・発言・行動） |

８　本時の指導計画

|  |  |
| --- | --- |
| １年１組　（全16時間中の第10時）授業者：（　　　） | 場所：１年１組 |
| 目標：みんなが楽しく遊べるように、遊び方やルールを工夫することや、分かりやすくするために工夫が必要であることに気付き、友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとする。 |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | ◆評価規準【観点】（方法）★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて |
| 導入 | 〇前時の振り返りをもとに、作ったおもちゃをみんなに紹介したり、遊んでもらったりすることを理解する。**＜めあて＞　　あきのおもちゃを　しょうかいしよう。**〇学習キーワードカードを使って、本時の学習計画を立てる。・遊ぶ時間はどれくらい取れそうかな。・紹介する前に、どんなことを言うか考えたいな。 | ★学習キーワードカードを活用することで、児童が主体的に本時の学習計画を立てられるようにする。 |
| 展開 | 〇おもちゃの紹介の練習をする。〇３人組で、作ったおもちゃの紹介をしながら遊ぶ。・まつぼっくりけん玉は、よく入るから面白かったよ。・どんぐりごまの軸は、まっすぐにするとよく回るよ。〇付箋に気付いたことを書く。 | ★３人組で活動することによって、交流が深められるようにする。◆【知】④（ＷＳ・発言・作品）◆【主】④（ＷＳ・行動・作品） |
| 振り返り | 〇付箋をもとに、直すところを整理して考えながら、本時を振り返り、次時のめあてについて話し合う。・どんぐりごまの軸をまっすぐにくっつけよう。・友達からアドバイスをもらって、よかったな。・友達のおもちゃで遊べて楽しかったな。 | ★振り返りの視点マグネットを貼って提示することで、何について振り返ればよいかを理解できるようにする。 |

|  |  |
| --- | --- |
| １年２組　（全16時間中の第11時）授業者：（　　　） | 場所：１年２組 |
| 目標：友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとする。 |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | ◆評価規準【観点】（方法）★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて |
| 導入 | 〇前時の振り返りをもとにおもちゃの改良への意欲を高める。**＜めあて＞　　あきのおもちゃを　もっと　しんかさせよう。**〇学習キーワードカードを使って、本時の学習計画を立てる。・作る時間はどれくらい取れるかな。・まず、何からはじめようかな。 | ★学習キーワードカードを活用することで、児童が主体的に本時の学習計画を立てられるようにする。 |
| 展開 | 〇トリオでおもちゃの工夫について話し合う。・もっと長く回るこまを作りたいから、穴を開ける場所を変えてやってみるよ。・ひもが取れないようにするには、どうすればよいかな。〇遊びに使う物を工夫して作る。・紐がすぐ取れてしまうから、紐の付け方を工夫しよう。・良く回るようにするにはどうしよう。 | ★３人組で活動することによって、交流が深められるようにする。◆【主】④（ＷＳ・行動・作品）◆【思】⑤（発言・行動・作品） |
| 振り返り | 〇どんなところを工夫したのかを考えながら、本時を振り返り、次時のめあてについて話し合う。・よく回るようになって、嬉しかった。・自分のおもちゃをいろんな人に遊んでもらいたいな。 | ★振り返りの視点マグネットを貼って提示することで、何について振り返ればよいかを理解できるようにする。 |

|  |  |
| --- | --- |
| １年３組　（全16時間中の第12時）授業者：（　　　） | 場所：１年３組 |
| 目標：秋祭り（仮）を開くために必要な役割を話し合ったり、準備をしたりして、みんなと協力して秋を楽しもうとする。 |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | ◆評価規準【観点】（方法）★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて |
| 導入 | 〇前時の振り返りをもとに、作ったおもちゃで開く秋祭りへの意欲を高める。**＜めあて＞　　あきまつり（仮）の　じゅんびをしよう。** |  |
| 展開 | 〇学習キーワードカードを使って、秋祭りの学習計画を立てる。・秋祭りを開くためには、どうすればよいかな。・招待状を書いて渡さないといけないね。・飾りをつけて、盛り上げたいな。〇どんな遊びを取り入れてお店にするかについて考える。・どんぐりゴマのお店で、作ったこまで遊んでもらいたいな。・回し方の説明も考えなくちゃ。・お店のグループを作ろう。 | ★学習キーワードカードを活用することで、児童が主体的に本時の学習計画を立てられるようにする。◆【思】⑥（ＷＳ・発言）　◆【主】⑤（振り返り・発言・行動） |
| 振り返り | 〇本時を振り返り、次時のめあてについて話し合う。・早く秋祭りがしたくなったよ。・幼稚園や保育園の子が楽しんでもらえるように頑張ろう。 | ★振り返りの視点マグネットを貼って提示することで、何について振り返ればよいかを理解できるようにする。 |

９　社会で活躍する人との連携

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 企業名 | 依頼内容 | 資質・能力の育成に期待できる効果 |
| 保育園・幼稚園・にじいろ保育園・南蒲幼稚園 | ・秋祭りへの参加 | ・相手意識をもっておもちゃ作りをしたり、秋祭り（仮）の準備をしたりすることで、相手の立場になって考える「他者意識」を身に付ける。 |